

くだもので身も心も元気に

ふくしま未来農業協同組合 もも専門部会長

菱沼 喜雄 さんに聞きました！



ふくしま未来農業協同組合 もも専門部会長
菱沼 喜雄さん

🐰 くだもの農家として働く
この魅力は？

多くの人に愛されているくだものを育てているというところに魅力を感じています。くだものを育てていると、一年を通して、花が咲いて、実がついて…。くだものの成長に触れることで、春夏秋冬を肌で感じられます。季節を感じながら作業するのは楽しいものです。皆さんにおいしいものをお届けするため、色んな作業を日々頑張っています。

🐰 これからの目標などは？

毎日やらなければいけないこと、基本となることをきちっとやっていくということを実行してきました。皆さんに食べてもらえるようなおいしいものを、仲間

と協力しながら頑張っていることが伝わればうれしいです。特に県北はモモの大きい産地です。最近はいターンなどで農業を頑張っている若い方も増えてきています。部会の代表として、自分の経験も伝えながら、そういう方々をしっかり応援していきたいと思います。そして地域の産業としてのモモを残していけるようにしたいです。

🐰 皆さんへメッセージを

新型コロナウィルスの感染拡大防止対策を取りながら作業を進めてきました。農家の人たちは春先から作業を続けて、食べた元気が出るようなおいしいものを出せるように頑張ってきたので、皆さんにはモモをたくさん食べてコロナを吹き飛ばしてほしいです。リピートして食べてもらうことが、農家にとってのバックアップになります。モモは順調に生育しており、今年もおいしいモモを皆さんにお届けできるでしょう。モモを食べれば元気も出るし、地元の方々に食べていただきたいです。



▲摘果の作業をする菱沼さん



We Love♥ ふくしま！ 第28回『新型コロナとの共存 ～ ICT化を進めよう』

スマホやタブレット、パソコンなどのICT機器をお使いですか？怖いとか、苦手だからと、利用していない人も多いと思います。確かに注意しないと怖い面はありますが、利便性ははるかにそれを上回ります。

コロナ禍ではICTの必要性が痛感されました。新型コロナとの共存には、ICTを活用した新しい生活様式が欠かせません。どこまで個人を把握するか議論はありますが、ICT環境が整備されていたことで、感染者との接触の有無や電車利用の是非などを判断し感染拡大を抑え込んだり、短期間で国民への金銭給付を行った国もありました。

一方日本は、一人10万円の給付金にオンライン申請が導入されたものの、それに必要なマイナンバーカードを所有している市民は1/5足らず。郵送申請はスタートまで時間がかかり、オンライン申請はそのチェックに郵送以上の手間がかかりました。今後発行の「ふくしま市民生活エールクーポン」も、電子マネーなら、どんなにスムーズで経費も低かったことか！それでも、職員開発の受付システムによって、同時に多く

の方の給付金申込みが可能となり、本市独自の困窮者向け緊急支給を実施できました。ネット通販で、売上げをカバーできた事業者、必要な買い物ができた消費者も多いと思います。

小中学校等で、長期の臨時休業中、ネットを通じ教材提供などを行いましたが、授業代わりのオンライン学習ができなかったのは本当に残念です。一昨年夏から急ピッチでオンライン学習の環境整備を開始し、今年度から3年間で児童生徒全員に一人一台端末を実施する予定でした。コロナ禍を機に、今年度中に前倒しして一人一台端末を実現し、教員の活用能力も高めていきたいと思っています。

ICT化は、今後国を挙げ、急ピッチで進められると思います。来年からは、マイナンバーカードの保険証としての利用が予定され、給付金を円滑に支給することができるよう、マイナンバーカードと振込口座との連携も検討されています。

市では、電子決済やネット通販を導入するなど新しい生活様式に対応したビジネスモデルの導入に取り組み事業者に2/3の助成を行います。ぜひご活用ください。災害や感染症のような危機のときには、スピードが特に求められます。この面からも、ICT化は避けて通れません。

まずは一台の端末とマイナンバーカード。9月からキャッシュレス決済に使えるマイナポイントが始まります。マイナンバーカードの取得には1カ月半ほど要します。この機会に、ICT化を始めましょう。

福島市長 木幡 浩

